道徳の学習指導案とは〈整理版〉

☆「学習指導要領解説・道徳編」（文部科学省）小学校編 P.81～83，中学校編P.85～87の内容にもとづく。

1　道徳の学習指導案とは

道徳の学習指導案について「学習指導要領解説・道徳編」（小学校P. 81、中学校P. 85）に示す表現を整理するならば、次のような性格をもつものであるといえる。

○　授業をしようとする教師が、年間指導計画に位置付けられた主題を指導するに当たって、児童生徒の実態に即し、教師の個性を生かして作成する指導計画
○　児童生徒がどのように学ぶのかを十分に考慮して、何を、どのような順序、方法で指導し、評価するのかなど、学習指導の構想を一定の形式にまとめたもの

2　道徳の学習指導案の内容

(1) 一般的に取り上げられる事項

学習指導案には、他の教科等と同様、道徳の時間にも決まった基準はない。しかし、道徳の時間は他の教科等と性格が異なることから、「学習指導要領解説」に取り上げたい事項について列記されている。

① **主題名**…ねらいと資料によって簡潔に示された内容、学習テーマを示す
② **ねらいと資料**……指導のねらい及び中心的に生かす資料名を明記する
③ **主題設定の理由**……およそ、１)ねらいとする内容について、２)児童・生徒の実態について、３)資料の生かし方や指導について、の３つの角度から示す
④ **指導区分**……複数時間扱いの授業の場合、本時の位置付けなどを示す
⑤ **学習指導過程**……学習展開を一般に導入、展開、終末に区分し、学習の流れを予想して、学習活動、発問、子どもの意識などを組み合わせて描き出す
⑥ **他の教育活動などとの関連**……特に関連のある教育活動について特記する
⑦ **その他**…評価の観点、資料分析、板書、場の設営、個別指導等との関連などについて必要な事柄を記述する

なお、これらのうち、④は中学校、⑥については小学校で特に示されているものであるが、いずれの学校段階でも必要に応じて考慮すべきものである。

(2) 道徳の時間と各教科の学習指導案との違い

道徳の時間は、各教科等の学習指導案と共通する面がある一方で、違いも様々に見られる。その明確な整理は難しいが、およそ下表のように対比させると理解しやすい。

表：道徳の時間と各教科の学習指導案の違い

	道　徳　の　時　間	各　　教　　科
学習のまとまり	主題を設定する	単元を設定する
用いる素材や題材	資料（または教材）	教　材
ねらい・目標	（本時の）ねらい	単元の目標 → 各時のねらい
学習を構成する理由	主題設定の理由 主題＝ねらい と 資料	単元設定の理由 単元＝目標 と 内容（教材）
指導時間	１時間１主題が多い	複数時間が多い 大単元＞小単元
学習指導案の枠組	活動と発問と子どもの予想される発言を中心に描くことが多い	学習活動を柱立てし、学習内容を工夫して描き出すことが多い
評価について	個別的・記述的評価が中心	評価基準に基づく観点別評価

このように、道徳の時間の学習のひとまとまりは「思いやる心」「生命の大切さ」のように道徳的価値に基づく生き方にかかわるテーマとしての主題であるため、各教科の例えば「江戸時代」「人体のしくみ」というような知的なユニットとは性格を異にする。

3　道徳の学習指導案の形式

学習指導案には、いわゆる「細案（密案）」と「略案」がある。細案は基本的な事項の全体を取り上げ、「主題設定の理由」を十分に書き出すが、「略案」はその部分を簡略化または省略する。

この学習指導案に一定の枠組や形式はないが、最も広く見られる表現形式に馴染むことが重要である。その上で、発展的な工夫を織り込んだり、違う角度から描いたりして、各教師の創意ある学習指導案となるようにするとよい。

また、学習指導案は、他の人に授業者の指導の意図や内容等を理解してもらうためのものであり、学校カリキュラムとして蓄積していくためのものでもある。その意味からも、見やすく統一感のあるものとしていくこともきわめて大切である。

※ 整理：東京学芸大学「総合的道徳教育プログラム」